



佐伯市（さいきし）について

佐伯市は大分県の南東部に位置し、903平方キロメートルと九州一広い面積を誇ります。

かつて佐伯藩2万石の城下町として栄えたこの地には、歴史薫る町並みが今も残っています。

地勢は、九州山地から広がる山間部、一級河川番匠川（ばんしょうがわ）下流に広がる平野部、リアス式海岸の続く海岸部に大きく分けられます。山間部は「祖母傾国定公園」を、海岸部は「日豊海岸国定公園」を形成し、美しく変化に富んだ自然が広がっています。2017年6月には、「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」として、佐伯市宇目地域が登録されました。

その豊かな自然によって育まれた豊富な食材を活用し、「味力全開！九州一佐伯」をキャッチフレーズとして、観光振興にも努めています。

また産業は、豊富な森林資源を背景にした林業、温暖な気候を利用した農業、豊後水道の恵みを生かした水産業に加え、造船業などの製造業が盛んです。



【有機農業の取り組み】

今日消費者の食に対する安全安心への関心は非常に高まっており、佐伯市においても化学肥料や農薬に頼らない有機農業等の推進が重要な役割を担うこととなります。

有機農業等が進むことは、高齢化の勢いが厳しい中山間地域の活力維持や所得の向上にもつながるものでもあり、有機農業を佐伯市で取り組むことは、佐伯の農業に大きな特色を持たせるための大事な一歩と考えております。

「実践農家」、「消費者」、「県、市、JA等の関係機関」により構成された有機農業を推進するための組織の構築を計画しています。あわせて、有機を目指す市民農園を開設し、定期的に土づくり及び栽培講習会を開催することにより、有機農業への取組を推進していきます。

【米水津地区】

米水津（よのうづ）地区は、佐伯市の南東に位置し、北・西・南を山に囲まれ、東に開けた米水津湾を囲むようにして、海岸部に6つの集落が点在しています。海岸はリアス式海岸特有の複雑な形状を呈しており、豊後水道につらなる米水津湾は天然の良港となっています。

豊後水道の暖流の影響で、気候は年平均15~16℃と温暖で、降水量も年間2,000ミリメートル前後と多く、無霜地帯で降雪もほとんどありません。人口は合併時におよそ2,500人、平成30年3月末にはおよそ1,900人弱と減少が続いておりこの中には、海外からの技能実習生50名も含まれています。

主要な産業は水産業と水産加工業です。まき網、定置網を主に沿岸漁業が行われている他、養殖漁業発祥の地として古くからブリ、カンパチ、ヒラメ、タイなどを生産しています。

また新鮮な魚を使った水産加工品は全国的にも知られており、水産加工業 15 社が互いに切磋琢磨しながらブランド力の向上に努めた結果、水産加工品の産地を確立しています。

農業は、柑橘栽培が中心ですが生産者の高齢化が進み耕作放棄地が増加している状況です。

観光業は自然景観を活かした訪問型の観光をメインとして展開し、豊後水道が一望できる空の公園、空の展望所、元越山、間越海岸など絶景ポイントが多数存在しています。

特産品は、イワシ丸干しやアジの開きなど多種多様な乾物類のほか、あじの丸寿司、スリミの郷土料理を水産加工組合が運営する海風館（シーフーカー）などで販売し好評を得ています。

イベントについては、毎月開催（8 月を除く）の「間越来だんせへ市」、春・秋開催する「元越山登山会」、不定期開催の「まんぷく市」、米水津の最大イベント「おさかなまつり」があります。また絶好の磯釣りポイントが多数あり、釣具メーカーや釣雑誌が釣大会を開催しています。

【蒲江地区】

蒲江地区は、佐伯市の最南端に位置し、宮崎県延岡市に隣接する水産業が盛んな地区です。年平均気温がおよそ 18 度と温暖で降水量は年間 2,000 ミリメートル超と多く、岬と入江が入り組んだ海岸線が 80 数キロメートルに及ぶ典型的なリアス式海岸を有しています。長い海岸線には多くの集落が点在し、人口は合併時におよそ 9,100 人、平成 30 年 3 月末にはおよそ 6,800 人と減少が続いていて、地区全体が過疎地域に指定されています。平成 27 年 3 月東九州自動車道佐伯～蒲江間の開通で、九州を一周する循環型高速道路ネットワークが完成し、劇的に交通体系が改善されました。

主要な産業は水産業です。沿岸漁業が盛んで、養殖漁業も歴史は古くブリ、カンパチ、ヒラメ、タイなど全国でも有数の生産量を誇ります。新鮮な魚を使った加工品製造も広く知られています。農業は、ハウス栽培の施設園芸が盛んに行われ電照菊やイチゴが生産されています。観光業は、魚の加工品などの特産品を中心に販売し、鮮魚を使ったメニューが有名なレストランを併設する「道の駅かまえ」「かまえインターパーク」、蒲江と延岡市北浦町で開催する食イベント“伊勢えび海道”“岩ガキまつり”“井街道”で特別メニューを提供する食事処、蒲江の海に魅了された九州の太公望をもてなす遊漁船や民宿が代表的です。

人の住む離島「深島」「屋形島」があります。両島とも 20 人ほどが暮らし定期船でそれぞれ 30 分、10 分の距離です。「深島」は、大分県最南端の島でネコの島として知られています。島には、素泊まりの古民家宿が 1 軒と深島食堂があり、食堂では手作りの深島みそが味わえます。また、サンゴ礁のあるきれいな海がダイビングスポットになっています。「屋形島」には、個室 1 室の素泊

まりの宿ゲストハウスがあり、SUP体験メニューやキャンプ用品、シュノーケリングセットの貸出しも行っています。島では色とりどりの緋扇貝が生産され、食べた後も工芸品や装飾品に利用できます。

蒲江地区は、多くの浦々からなっており、昔から浦々に伝統料理が伝わっています。婦人会などが中心となって、「かまえおばちゃんバイキングの会」を結成し、イベントなどで伝統料理の提供を行っています。高齢化も進んでおり、今後の伝承が課題となっています。

今回の募集では、かまえおばちゃんバイキングの会や婦人会などと一緒に、伝統料理を伝承するとともに、地域の空き家や空き店舗を活用して飲食店を行う協力隊を募集したいと考えています。

- ・ 令和元年度 佐伯市地域おこし協力隊 活動報告会

<https://www.youtube.com/watch?v=6PVudUxmJyY&feature=youtu.be&fbclid=IwAR3bsWG04gbF9BusTaMo5iahMEhv4bzsv3-6rxrC3-QJVK62Axndbx5voCU>

- ・ 佐伯市地域おこし協力隊ブログ <http://ameblo.jp/saikishi-oita>
- ・ 佐伯市地域おこし協力隊 facebook <https://www.facebook.com/oitasaiki1/>
- ・ 田舎の暮らし方ブログ <https://inaka.arukikata.com/oita/saiki/>
- ・ 米水津観光ブログ <http://yonoudu.exblog.jp>
- ・ ふるさと物産館海風館 <https://www.facebook.com/seafukan>
- ・ おおいたの島めぐり <http://oitasima.net/index.html>
- ・ 深島 ディープマリン <http://fukashima.com/>
- ・ 屋形島ゲストハウス <https://www.yakatajimaguesthouse.com/index.html>
- ・ 道の駅かまえ Buri Laboratory <http://buri.fish/index.php>
- ・ かまえインターパーク <http://kamae-amabe.com/>
- ・ さいき「食のまちづくり」 <http://www.city.saiki.oita.jp/syoku/>
- ・ 食のまちづくりブログ <http://shokumachi.exblog.jp/>
- ・ 東九州伊勢えび海道 <http://higashi-iseebi.jp/>
- ・ 日豊海岸ぶんご井街道 <http://blog.nippo-lia.com/>
- ・ 黒潮の極佐伯寿司海道 <http://saiki-sushi.net/>
- ・ 佐伯ごまだしうどん <http://www.yappa-saiki.sakura.ne.jp/saiki-gomdasi/>